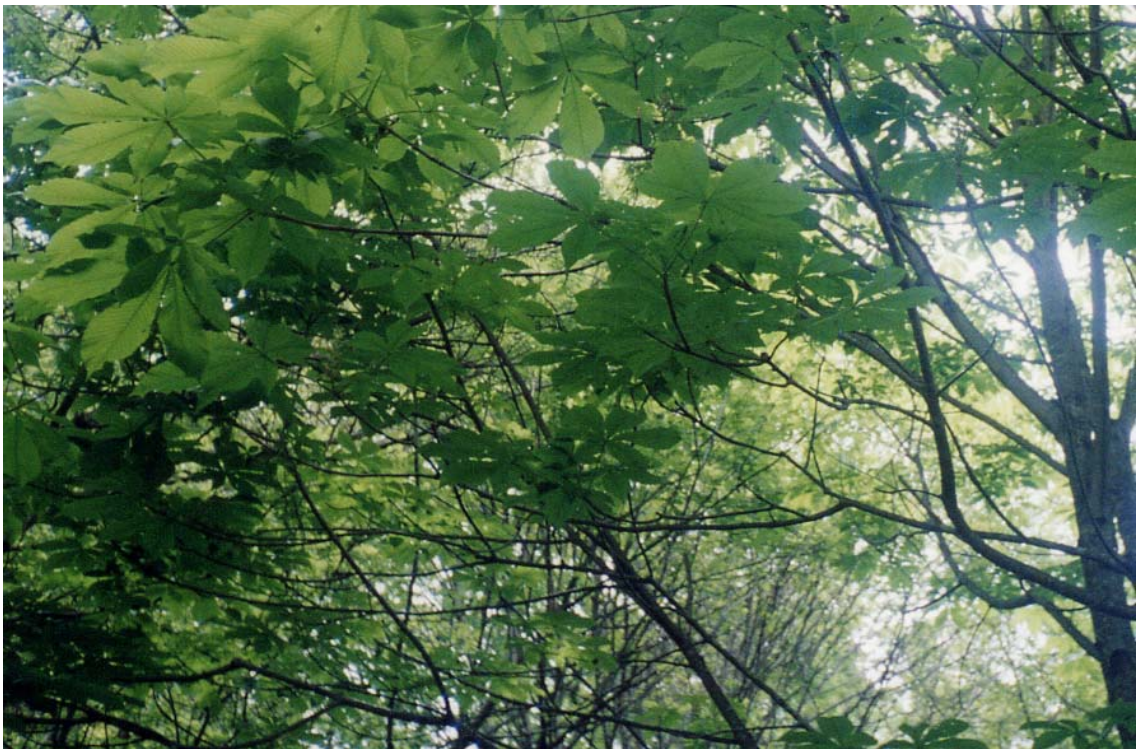


ようこそ

## 前田林業株式会社森林へ

平成 21 年 4 月 1 日作成



前田林業(株)加茂町森林内

- 1.設立年月日 昭和 13 年
- 2.創業者 前田 熊太郎
- 3.代表取締役社長 前田 繁治
- 4.資本金 2,160 万円
- 5.本社所在地 兵庫県伊丹市伊丹 3-6-22
- 6.津山出張所 岡山県津山市河辺 1115-4



ヤマシャクヤク

7.沿革



前田林業(株)の創業者である前田熊太郎が経営していた証券会社「前熊商店」が昭和8年に株式の担保で預かっていた現奈良県の森林を取得したことがきっかけとなり、山林部を創設。昭和13年には同県野迫川村の森林を購入し、現地に製材所と木工工場を建設し、名称を「前田林業(株)」に変更。当時は皆伐を主体とし、木工工場においては紡績用の糸巻きを生産。第二次世界大戦時下、合板製飛行機製造のためという理由で森林、工場とも軍により買収。その資金をもとに同県御杖村、現岡山県加茂町、同県西粟倉村の森林を購入。御杖村については農地買収となったため現三重県白山町の森林を購入。平成元年和歌山県清水町の森林を購入。現在に至っている。

8. 所有森林面積

(単位 ha)

|         |        |
|---------|--------|
| 岡山県加茂町  | 292.85 |
| 岡山県西粟倉村 | 118.54 |
| 三重県白山町  | 93.09  |
| 和歌山県清水町 | 54.88  |
| 合計      | 559.36 |



加茂町森林内

9.主な樹種と面積

(単位 ha)

|             |            |                   |        |       |
|-------------|------------|-------------------|--------|-------|
| 人工林         | 針葉樹        | スギ<br>ヒノキ<br>アカマツ | 496.56 | 88.8% |
|             | 広葉樹        | クリ<br>ケヤキ         | 6.00   | 1.1%  |
| 天然林         | ブナ<br>他広葉樹 |                   | 35.95  | 6.4%  |
| 未立木地(岩石地など) |            |                   | 20.79  | 3.7%  |

10.運営状況

加茂町森林と西粟倉森林は3名の林内作業者によって除伐、枝打ちなどの保育作業を行い、収入間伐については森林組合に委託。他は全ての作業を森林組合に委託。

11.所有林業機械

SKY CARRY (スカイキャリージャパン)

12.主な出荷先

岡山県加茂町 ── 岡山県森林組合連合会原木市場  
 岡山県西粟倉村 ── 私営石谷原木市場  
 三重県白山町 ー 私営美杉木材市場  
 和歌山県清水町 ー 現在出荷に至っていない。

13.道路開設状況

約 45m/ha (現在林野庁の目標は約 20m) (単位m)

|      | 作業道 (幅 3m)          | 林道 (幅 3.5m) | m/ha |
|------|---------------------|-------------|------|
| 加茂町  | 13,334              | 2,000       | 52   |
| 西粟倉村 | 3,350 (うち 1700 は公団) |             | 28   |
| 白山町  | 5,407               |             | 58   |
| 清水町  | 250                 | 1,100       | 24   |
| 合計   | 22,241              | 3,100       | 45   |

14.齢級構成

別添表参照



ウグイスの巣

## 15.基本方針

- 1.スギ、ヒノキ、ケヤキの人工林については大径木の生産を目指す。スギは80年、ヒノキは150年、ケヤキは200年を主伐の時期と考え、それまでは間伐を主体に行う。
- 2.土砂崩れ防止、動植物の保護のため広葉樹を保存する。
- 3.ツキノワグマ等の野生動物保護のためにその食料となるクリ等を植栽する。
- 5.良質材生産のため下刈り、枝打ち、除伐を適期に行うようにする。

## 16.今後の課題

### ① 育林コストの削減

従来の植林、下刈り、枝打ち、除伐の育林方法では国際価格には太刀打ちできない。また人材の不足から同じような育林体系が維持できるとは思われない。植林を続けるのか。天然更新が可能なのか。列状間伐の列の幅を広げ、幅の広さはどれぐらいで、どの樹種なら混交林、多段林への誘導が可能なのか、研究機関と協力して模索する。

### ② 伐採・搬出コストの削減

本年度導入したGPSによって正確な作業道の位置を測定し、GIS上に取り込み、より効率的な伐採、搬出方法をわり出し、更なるコスト削減に挑む。

### ③ レクリエーションへの活用

加茂町森林のクリ林は植林後放置されてきたが、本年度初めて除伐、間伐、枝打ちを試みている。地域へ開かれた森林のレクリエーションの場として森林教育開催など活用方法を考える。

### ④ 人材の確保

現在、直営の作業員は3名だが平均年齢が53歳で高齢化してきている。早期の人材確保が必要である。